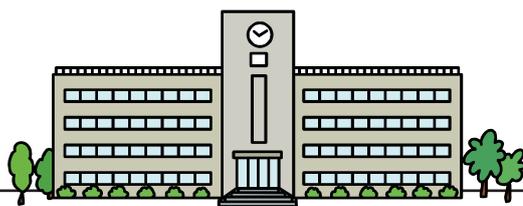


**募集中**

# 高校と共に授業を作る

～県立明石清水高校「科学と人間」コース～



昨年の体験談は

**ウラ面**  
をご覧ください

兵庫県立明石清水高等学校では、科学と人間コースの1年生を対象に「科学と人間」という授業を行っています。そこでは、科学と人間のあり方について考え、その考えをまとめることを目標としています。

そこで、授業「科学と人間」を行うにあたって、その授業作りに関わっていただける大学院生を募集します。

## [活動内容]

明石清水高校で行われる「科学と人間(1単位、1年次実施)」における講義(話題提供)やゼミ活動(調べ学習)の指導、発表時のアドバイザーなど

## [求められる人材]

将来教師を目指している人/自然科学や人間科学など、文系理系を問わず人間と科学の関係について関心がある人/高校の授業を教師と一緒に試してみたい人 など

## [講義内容]

講義内容は、人間と科学に関係するものであれば、文系・理系を問いません。また、科学的な現象・問題に関する考察、人間の行動や考え方について科学的な分析を行う等、幅広いテーマ設定を期待しています。大学院での研究内容を踏まえたテーマ設定も可能です。

## [昨年度講義実施例]

食の安全を考える/宇宙線観測/環境問題を考える  
事例から学ぶ工学倫理の考え方/リスク学入門



## [活動日時]

7月中に1回の打ち合わせ、9月以降年度内に数回程度(金曜日の午前中を予定)の授業協力

## [活動場所]

県立明石清水高校(〒674-0074 明石市魚住町清水630番地の1)

## [募集対象]

神戸大学大学院人間発達環境学研究科の院生、ポスドク

## [応募×切]

**6月30日(火)**

応募多数の場合は、明石清水高校の先生方と共に選考させていただきます。

[申込み・お問い合わせ先]

# 2008年・明石清水高校「科学と人間コース」・授業体験談

神戸大学HP: <http://www.h.kobe-u.ac.jp/2976> に詳細な報告があります。

## 「宇宙線観測」 六條 宏紀（人間環境学科自然環境論コース）

私の専門分野について紹介しました。丁度、ノーベル賞受賞のタイミングも重なって、最後まで集中して聞いてくれていました。授業後のアンケートには「クオークのことがよく分かった」という感想が目立ちました。彼らの中から、素粒子物理の道へ進む人が現れることを期待します。

授業前日に、研究室にある実験装置を明石清水高校まで運びました。高校ではお目にかかれなくても高価な装置の数々（持ち出しを許可して下さった担当教官に感謝！）に生徒達は興味津々でした。実際に装置に触れてもらいながら解説をし、授業の最後には、宇宙彼方から地上へと降り注ぐ“ミュー粒子”を全員で観測しました。

こちらがやりたいように、本当に自由に授業作りをさせて頂きました。授業準備や講義をする中で、自分の専門分野を分かりやすく伝える大切さ、難しさを痛感し、さらに自分の研究の楽しさを再確認することが出来ました。教員を目指している方も、そうでない方もきっとやりがいのある体験になるだろうと思います。

## 「環境問題の見方」 飯田 広史（人間環境学科自然環境論コース）

はじめてこの明石清水高校と授業を作るというお話を紹介されたとき、僕はチャンスと思いました。僕は教員志望であり、教育現場を知るいい機会だと思ったからです。それと同時に、高校生を相手に扱ってみたいと思っていたテーマが浮かんでいました。それは『特に環境問題においてはマスメディアを鵜呑みにしてはいけない』ということです。

ゼミのテーマは地球温暖化ということにしましたが、ここでの主体は生徒自身であるので僕は必要最低限の助言しかしませんでした。しかしゼミの時間が少なかったため、ただの調べ学習のような時間になってしまったのは少しもったいない気持ちです。もう少しこちらのほうで問題や課題を設定しておけば、少ない時間でも高度なことができたのかもしれないと反省しています。

しかし反省している僕とは裏腹に生徒たちの発表準備は着々と整い、発表の日。

生徒は「この点は強調してね」と言った部分さえ、緊張のためかすべてすっ飛ばしていましたが、『自分で調べて発表の行う』ということの難しさを身に染みて感じていたので、とても良い機会になったのではないかと思います。僕自身としても高校生という年代に授業を行うという機会は非常に貴重だったと思っています。

## 「事例から学ぶ工学倫理の考え方」 藤木 篤（人文学研究科文化構造専攻 哲学コース）

私は普段、「工学倫理」という専門分野で研究を進めています。詳しくは述べませんが、研究と同時に（あるいはそれ以上に）教育が重視されるような学問領域です。ですから、「科学と人間」コースで授業協力をしてほしいか、とのお誘いはまさしく渡りに船、という感じでした。

実際の授業も、なにごとにおいてもまずは我々院生の自主性に任せて下さったので、本当に思うがまま、のびのびとやらせて頂きました。授業は、事例をベースに討論するという工学倫理教育における最もオーソドックスなスタイルを採りました。実験的・野心的な試みはほとんど取り入れませんでした。授業後のアンケートを読む限り、もう少し興味を持たせられるような試みがあってもよかったかな、と思います。

「科学と人間」コースを受講する生徒の中には、将来工学系を目指す未来のエンジニアたちが多くいる、と聞きました。彼らに工学倫理の考え方を紹介できたことを、大変光栄に思います。しかし科学技術に関する問題へは、彼らを中心にして、わたしたち全員が関わっていかねばなりません。そういった意味で、将来エンジニアを目指す人もそうでない人も、同じ場所で対等に意見を交換しあえたことは、良い経験になったのではないのでしょうか（この点に関してはアンケートでも概ね好意的な意見を頂いていました）。

生徒からの忌憚のない意見は、新鮮であると同時に、参考になる箇所が多く含まれていたように思います。ほとんどが励みになった一方で、反対に反省を促されるものも少なくはありませんでした。そうした点も含め、今回の取り組みで多くのことを学んだのは、生徒の側ではなく、私の方だったような気がします。